教材・支援機器活用実践事例（特別支援学校版）

	実践名（実践年度）	アプリ（ワークWatch）を活用した作業学習での取り組み（平成30年度）
参加する授業について	教科名等 （該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。）	□国語　□社会　□算数/数学　□理科　□生活　□音楽　□図画工作/美術 □家庭/技術・家庭　□体育/保健体育　□道徳　□外国語/外国語活動 □総合的な学習の時間　□特別活動　□自立活動　☑各教科等を合わせた指導 □その他の教科　□その他（　）
	単元・題材名	作業学習（コースターの製作）
	授業の目標	・職業生活に必要な基礎的な知識と技能を身に付け、生徒個々の実態作業能力を高めるとともに働く意欲や態度を育てる。 ・決められた時間内で作業内容を理解し、継続して活動することができる。
	観点別学習状況の評価の観点 （教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。）	□「知識・理解」 ☑「技能」 □「思考・判断・表現」 ☑「関心・意欲・態度」 □その他（　）
	自立活動の要素	□健康の保持　☑心理的な安定　□人間関係の形成　☑環境の把握　□身体の動き　□コミュニケーション
学習（集団）の実態 子どもの実態	学部・学年・人数	□通常の学級　□通級による指導　□特別支援学級　☑特別支援学校 □就学前　□小学生　☑中学生　□高校生以降 □特定されない 1～3学年
	対象の障害	□視覚障害　□聴覚障害　☑知的障害　□肢体不自由　□病弱・身体虚弱　□言語障害　□自閉症　□情緒障害　□LD（学習障害）　□ADHD（注意欠陥/多動性障害）□その他
	子どもの課題 （特性・ニーズ）	□聞く　□読む　☑見る　□話す　□書く　□運動と姿勢　□計算する　□推論する　□日常生活活動　□社会性・コミュニケーション　□不注意 □多動性－衝動性　☑覚える・理解する　□時間的・空間的・人的交流の制約　□その他 写真や動画を見て作業工程の手順を知ることができる。 作業工程が終わると、機器（iPad)をタッチすることができる。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称 （使用した支援機器・教材の名称を記載。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。）	iPad（アプリ名：ワークWatch）
	活用のねらい （概要）	A コミュニケーション支援（□A1意思伝達支援　□A2遠隔コミュニケーション支援） B 活動支援（☑B1情報入手支援　□B2機器操作支援　□B3時間支援） C 学習支援（□C1教科学習支援　□C2認知発達支援　□C3社会生活支援） 作業工程を視覚的にわかりやすく提示することによって、作業効率を上げ、意欲的に取り組むことができる。
	活用方法	一つのアプリで、作業手順の提示、時間の提示、できた数の提示等ができる。また、作業手順は生徒の実態に合わせて写真や動画で提示することができる。 また、手順カードなどを作成するよりも、その場で写真等を撮影するなど短時間で作業手順の補助道具を準備することができる。
効果・評価	ICTを活用した授業での子どもの様子や変容および授業の評価	ICT機器に興味関心の高いせいとが多いので、手順カード等を使った場合と比べ意欲的に取り組むことができた。また、手順カード等は用紙をめくったり一枚の用紙に複数の手順が示してある場合もあり、アプリを活用したほうが生徒も理解しやすいようであった。 また、このアプリのみで作業手順の提示、作業時間の提示、終了個数の把握できるので、作業スペースもコンパクトになった。
資料	図・写真・表等 （生徒の写真は個人情報公開の確認を取っているものとする。）	 メニュー画面 作業内容の設定 アプリ活用画面 作業時のログ （各工程の作業時